

学生相談において希死念慮が語られた際の対応マニュアルの試案

Development of Manuals for Suicide Prevention in Student Counselling

田中乙菜¹⁾

1) 一橋大学学生支援センター学生相談室

要約

本研究は、大学学生相談室の面接において、学生から希死念慮が語られた際にどのように状態を見立て、対応するのかについての具体的方策を明らかにし、「学生相談において希死念慮が語られた際の対応マニュアル」を作成することを目的とした。その結果、1. 希死念慮が語られた際のチェックシート、2. 希死念慮が語られる際の対応ポイント、3. 学外の医療・心理相談機関のご案内、4. 緊急時連絡網、5. 緊急時の医療機関リストの5点が含まれるマニュアルが作成された。

キーワード：学生相談、希死念慮、対応マニュアル

わが国において、自殺の問題は非常に大きな社会的問題となっている。厚生労働省(2019)の発表では、2018年における自殺者の総数20,840人のうち、「学生・生徒等」は812人であり、同年における15～39歳の死因の第一位は自殺であるとされている。また国立大学を対象に1985年～2005年の21年間に実施した調査(内田, 2010)によると、大学生7,350,496人のうち、自殺した学生は987人、10万比13.4人であり、1996年以降、大学生の死因の第一位が自殺によるものとなっている。こうした現状を踏まえ、大学生を対象とした自殺に関する研究には、事例を含めた自殺の実態を明らかにしたもの(中村・西村, 2000)や

対応に関するもの(斉藤・飯田・川崎, 2013)、自殺予防教育について(杉岡・若林, 2012)等様々な観点のものが報告されており、展望論文としては、杉岡(2018)がまとめた報告がある。

大学における自殺の対応・対策を考える際には、様々なカテゴリーがあるといえる。1点目には、学生支援にかかわる大学組織の階層が挙げられる。独立行政法人日本学生支援機構(2007)は、学生支援の3階層モデルを提示している。これは、日常的な研究室運営、窓口業務等の中で学生を支援していく「日常的学生支援(第1層)」、クラス担任制度やアカデミック・アドバイザー等、相談の役割・機能を担った教職員

による活動を含む「制度化された学生支援（第2層）」、そして2つの階層を超えてより困難な課題が生じた際に、学生相談機関や保健管理センター等の学内の専門的學生支援部門が支援を行う「専門的學生支援（第3層）」の3層である。大学組織の各層において、果たせる役割は異なることから、各層がどのような役割を担い、組織内でいかに連携していくことが有効なのかについて、各大学の実情にあわせた方針を打ち立てる必要がある。

2点目には、危機段階が挙げられる。Coombs (2010) は、危機管理の段階を pre-crisis、crisis、post-crisis の3段階に分けており、日本学生相談学会(2014)は「日常的対応」「ハイリスク学生への対応」「危機対応」「事後対応」の4段階を設定している。各段階に関して、石井(2019)は、危機前段階では、平時の活動を通してリスクの顕在化を防ぐことを目指すと同時に、危機は起こるものと考え、様々な危機状況を想定し、危機発生時に備えること、危機対応段階では、学生が再び心理的均衡状態に戻ることを目標とし、被害や影響の拡大を抑えること、危機後段階においては、ストレス反応など危機の影響からの回復と再発予防を行うことにそれぞれ主眼が置かれると述べている。

3点目には、危機介入策が挙げられる。石井(2019)は、危機介入策として「心理的援助」「予防教育」「環境整備」の3つを挙げており、「心理的援助」は、心理学的アプローチとスキルを用いて行う援助であること、「予防教育」には、学生への心理教育、スキルトレーニング、情報提供が含まれること、「環境整備」は、学生の家族、友人、関係教職員、大学コミュニテ

ィ全体といった環境要因に働きかけ、よりよい教育環境を実現することによって、予防効果を期待するものであることと説明している。

以上より、大学において自殺対応・対策を準備する際には、大学組織の階層、危機段階、危機介入策の各次元における水準をそれぞれ組み合わせ、その組み合わせられた局面ごとに準備をすることが求められる。例えば、大学組織の第2層であるクラス担任が、危機前段階において、どのような予防教育を行うのか、といったことである。大学において学生を支援し、自殺対策を図るためには、こうした多面的な対策が求められる。

しかしその一方で、各大学においてそのすべてを網羅的に備えることは容易ではない。実際に学内で希死念慮を訴えたり、心配な様子が見られる学生がいた場合は、保健センターや学生相談室といった「専門的學生支援（第3層）」機関に紹介され、相談員が対応することが多いことを考慮に入れると、まずは専門的學生支援機関における学生の対応法を準備することが重要であると考えられる。

本研究の目的

以上を踏まえ、本研究は、「専門的學生支援（第3層）」機関である学生相談室において、学生から面接の中で希死念慮が語られた際に、どのように危機を見立てて、対応するのかについての具体的方策を明らかにすることを目的とする。

学生相談室に勤める相談員は、先述のように、希死念慮を訴える学生の対応を求められる機会があると考えられる。しかしな

がら、希死念慮に対する対応方法、マニュアルに関しては、医療場면을対象としたものが多く作成されている一方、大学を対象としたものは、日本学生相談学会(2014)や国立大学法人保健管理施設協議会(2010)が作成したガイドラインがあるものの、学生に対して具体的に面接の中でどのような対応をするべきかに関しては、まだ十分な検討がなされているとはいえない。また事前にこうしたガイドラインの内容を把握していたとしても、咄嗟の緊急時に、受容的に学生にかかわりながら、冷静に必要な情報を収集し、緊急度の判断や対応を実施することに不安を感じる相談員も多い。そこで本稿では、学生相談室の相談員を対象として、相談員が面接の中で学生から希死念慮を打ち明けられた際に、確認・対応すべき内容を整理し、その具体的な内容・手順を確認できることを目的とした「学生相談室において希死念慮が語られた際の対応マニュアル」を作成する。

学生相談において希死念慮が語られた際の対応マニュアルの作成

「学生相談において希死念慮が語られた

際の対応マニュアル」の作成にあたり、日本学生相談学会(2014)、国立大学法人保健管理施設協議会(2010)作成のガイドラインの他、自殺対応に関する先行研究(杉山・葛西・井出・宮崎, 2010; 桑原・河西・川野・伊藤, 2009 他)や、様々な自治体や支援団体が作成したマニュアルやチェックシート(宮城県自死対策推進センター; 特定非営利活動法人メンタルケア協議会 他)等を参考にした。桑原他(2009)は、自殺に傾いた人への対応の手順として、傾聴、状況把握、問題の整理、危険性のアセスメント、危険性が高い場合の安全確保、自殺からの保護要因の同定と強化、自殺以外の方法についての話し合い、キーパーソンの同定と支援要請、自殺をしない約束、対応内容の文書保管等を挙げており、これらはその他の先行研究と大きな相違が見られなかった。そのため、本マニュアルもこれらの要素を含めることとし、それに加えて大学、特に学生相談において重要、必要な点や本学の大学組織等に即した内容を盛り込んで作成された。その結果、本マニュアルは、表1に示した以下の5点から構成された。

表1 学生相談において希死念慮が語られた際の対応マニュアルの構成

1. 希死念慮が語られた際のチェックシート	面接の中で聞き取るべき事項をまとめたもの。医療機関等への情報提供書を兼ねられる様式となっている。
2. 希死念慮が語られる際の対応ポイント	チェックシートを元に、アセスメントを行った後の危機のレベルごとに対応をまとめたもの
3. 学外の医療・心理相談機関のご案内	主に相談室が閉室している夜間や休日に対応してくれる相談窓口や医療機関案内等の情報をまとめたもの
4. 緊急時連絡網	緊急時における学内連絡網
5. 緊急時の医療機関リスト	大学近隣の主に入院施設・救急対応のある医療機関のリスト

希死念慮が語られた際のチェックシート

本シートは、希死念慮が語られた際に、主に状態を把握し、対応の緊急度の判断を行うために、面接の中で聞き取るべき事項をまとめたシートである。また、裏面には対応や連携先等について記載する項目も用意し、情報提供書等を作成する時間のとれない緊急時においては、医療機関等への紹介状・相談情報提供書を兼ねられるものとした。下記に各項目を挙げる。

(a)本人の様子…文部科学省（2009）や内閣府（2013）等を参考に、自殺を考える人に見られやすい状態をリストアップし、該当する項目に○をつけられる形式にした。また逆に、通常の様子が認められるかを確認できる項目も設定した。

(b)日常性の維持…食欲、睡眠、身体の不調の他、大学生においては授業の出席状況、単位取得状況といった大学生活状況もリスクの検討に有効であるため、質問項目に含めた。また、保護者が現状を知っているかといった点も保護者への連絡を考える際に必要な情報であるため、そうした項目も用意した。

(c)抑うつチェック…自殺者の85%が精神疾患に罹患しており、その3～5割をうつ病が占めている（古野，2010）といわれている一方で、大学生の自殺の場合は、うつ病に限らないともいわれている（福田，2017）。そのため、うつ状態がなければリスクが低いと見積もれるわけではない。この点には注意が必要であるが、うつ状態の高さが自殺のリスク指標の1つとして機能することは間違いのないことだと考えられる。そのため本チェックシートには、うつ病の診断基準に関する項目を掲載し、

抑うつ状態を確認できるようにした。また、より詳細にうつについて査定する場合のために、本チェックシートとは別に、日本語版SDSうつ性自己評価尺度（Self-rating Depression Scale:SDS）（福田・小林，1973）ならびに、日本語版自己記入式簡易抑うつ尺度（Quick Inventory of Depressive Symptomatology:QIDS-J）（藤澤他，2010）、日本語版BDI-II（小嶋・古川，2003）を用意し、必要に応じて実施できるようにした。

(d)医療機関受診歴…医療機関の受診歴の有無や通院中か、中断したかといった情報、通院先・主治医・投薬に関する情報は、医療機関と連携を図る際に重要なキーとなるため、設定した。

(e)自殺念慮の確認事項…宮城県自死対策推進センター作成の自死アセスメントシートや特定非営利活動法人メンタルケア協議会作成のJAM自殺リスクアセスメントシートを参考に、自殺念慮の程度、自殺の手段・道具、自殺の準備といった項目を作成した他、家族等の支援や本人の支援希求の有無に関する項目も含めた。

(f)その他確認事項…学生相談室への今後の来室可能性や、保護者、ゼミ教員、学内への情報開示の承諾確認欄を設けた。

(g)対応記入欄…裏面には面接終了後に記入する欄を設けた。対応記入欄には、面接で行った対応についてチェックする項目と、自由に記述できる欄を設けた。

(h)連携・情報共有先…学内他部署やゼミ担当等の教員、学外機関等、連携あるいは情報共有を行っている箇所や担当者を入力できる欄を用意した。

希死念慮が語られた際のチェックシート

★聞き取りの際に伝えること★

「ご自身の状態・気持ちを打ち明けてくださったことへのお礼の言葉」
 「危機がある」と判断した場合には、学生の同意がなくても家族に連絡することもある！
 「危機がある」と判断した場合には、学生の同意がなくても学生を守るために学校で情報を共有することもある！

下記状態質問時期、さつかけ、理由

対面日	年 月 日 () () ()	対面時間	時 分～	時 分	対面者
学生氏名	学籍番号・学年	住所	〒	番	号
		実家	〒	番	号
		その他	() () ()		

普段の様子と変わっていない ・ 言葉の調子が落ちている

状態
 絶望感 ・ 孤立感 ・ 罪悪感 ・ 強い苦痛感 ・ 無価値感 ・ 怒り ・ 諦め ・ 諦め
 苦しみが永遠に続くという思い込み ・ 心理的視野狭窄 ・ 解離 ・ 喪失感(喪失体験) ・ 躁鬱不穏
 主とまりのなさ ・ 反動の良さ ・ 脱走や感情、態度等 ()

食欲: あり なし ()
 睡眠: 1日 時間程度 () 時～ () 時 ・ 入眠困難 ・ 早朝覚醒 ・ 中途覚醒 ()
 身体の不調: なし あり ()
 人と会う場面回避: なし あり ()
 保護者は現状を知っているか: ()
 即けになる人: いる (氏名・所属・連絡先等 ())
 いない

授業の出席状況: ()
 単位取得状況: ()

【その他気になる点、心配な点】

知ろつちエフ
 ほぼ毎日、(ほぼ)一日中... 精神運動機能または制止
 抑うつ気分(憂鬱的気分) 易疲労性、または気力の減退
 不眠または過眠 全て、またはほとんどの活動における興味・喜びの著しい減退
 無価値観、または絶望があるいは不適切な罪悪感 著しい体重減少・増加 (1ヶ月で5%以上)、食欲の減退・増加
 思考力や集中力の減退、または決断困難 死についての反復思考
 上記症状による著しい苦痛 社会的・生活的機能の障害

医療機関受診歴 なし あり (通院中 ・ 以前受診 ・ 治療中断 ・ 退院(1か月以内) 通院先・主治医・治療歴 投薬 ()

自殺に関する発言・エピソード	「	LSN1	LSN2	LSN3	」
自殺念慮の程度	<input type="checkbox"/> 限定的、一時的 <input type="checkbox"/> 持続的	<input type="checkbox"/> 考えない <input type="checkbox"/> 考えない	<input type="checkbox"/> 自殺の切迫 (企図頻回・自傷エピソード)	<input type="checkbox"/> 自殺の切迫 (企図頻回・自傷エピソード)	()
自殺の手段・道具	<input type="checkbox"/> 準備していない	<input type="checkbox"/> 準備している	<input type="checkbox"/> 準備している	<input type="checkbox"/> 準備している	()
自殺の準備	<input type="checkbox"/> 自傷なし <input type="checkbox"/> 自傷あり ()	<input type="checkbox"/> 自傷なし <input type="checkbox"/> 自傷あり ()	<input type="checkbox"/> 1か月以内 (詳細:)	<input type="checkbox"/> 1か月以内 (詳細:)	()
自傷・自殺企図歴	<input type="checkbox"/> 命を失ったと感ずるか	<input type="checkbox"/> 命を失ったと感ずるか	<input type="checkbox"/> 命を失ったと感ずるか	<input type="checkbox"/> 命を失ったと感ずるか	()
命を失ったと感ずるか	<input type="checkbox"/> 可能 <input type="checkbox"/> 不可	()			
自殺念慮発生の可能性	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (側面にある)	()			
他人の支援要請	<input type="checkbox"/> 求めない	<input type="checkbox"/> 求める	<input type="checkbox"/> 求めない	<input type="checkbox"/> 求める	()

相談室の今後の来室可能性: あり わからない なし
 保護者への情報開示の了承: どれれ どれれ なし
 セミ教員、学校への情報開示の了承: どれれ () どれれ

※ 判断に迷う時は、いつでも相談！ チームで対応！

一橋大学学生相談室

一橋大学学生相談室

※対面 (面接後に記入)

医療機関に繋いだ、連絡を取った ()
 医療機関を呼び、受診を勧めた ()
 家族に繋いだ ()
 家族に相談を促すよう勧めた ()
 次の来室の約束をした、自死をしない約束をした ()
 夜間、休日の相談室へ緊急を要した ()

その他 ()

連携・情報共有先

専任 ・ 保健センター ・ 学生支援課 ・ 学内窓口 () ・ その他 ()
 セミ教員 ・ 学外機関 ()

特記事項 (通院先を記入) 学内相談室 ・ 学外機関への連絡事項

図1 希死念慮が語られた際のチェックシート

(a)～(h)の項目の後には、「特記事項」欄を設け、例えば本チェックシートを紹介状として用いる場合等に紹介先への連絡事項等を書けるようにした。本チェックシートの欄外には、聞き取りに当たって最初に伝えることとして「ご自身の状態・気持ちを打ち明けてくださったことへの労いの言葉」「危機があると判断した場合には、学生の同意がなくても家族に連絡することもある」「危機があると判断した場合には、学生の同意がなくても学生を守るために学内で情報を共有することもある」の3点を挙げ、それぞれにチェック欄を設けた。また、「判断に迷う時は、いつでも相談！チームで対応！」とメッセージを記載し、相談員が一人で抱え込まないようにした。

希死念慮が語られた際の対応ポイント

先述のチェックシートを元に危機のレベルを判断した後に行う対応についてまとめたものであり、全レベルに共通する事項の他、各レベルにおいて必要な対応や学内外との連携、保護者への連絡、環境調整等の方針について記載している。

「すべてのレベルに共通する事項」には、ハイリスクな状態を示すサイン（山田，2010）、「TALK」の原則（高橋，2007）、面接の中での対応の原則（山田，2010；学生相談学会，2014を参考に作成）、本学学生相談室が所持している抑うつに関する心理検査のリストを含めた。次に、「チェックシートを基に判断したレベルごとの対応」は、国際基督教大学カウンセリングセンター（2015）を参考に作成し、レベル1（希死念慮はあっても具体性はない）、レベル2（自殺念慮がある）、レベル3（自殺念慮があり、具体的に自殺する

危険がある）の3段階のレベルごとに、それぞれ「学生の状態」「学生相談室での対応」「学生内連絡・連携」という項目を設定した。「学生相談室での対応」「学内連絡・連携」の項目には、個別対応の注意点を記載した他、本学における学内連携の仕方等、本学の組織的な現状を踏まえた内容を盛り込んだ。

学外の医療・心理相談機関のご案内

主に学生相談室が閉室している夜間や休日に対応している相談窓口や医療機関案内等の情報をまとめた資料であり、必要に応じて学生にお渡しすることを目的としたものである。

緊急時連絡網

緊急時に学内各部署等に連絡を取る際の連絡網であり、学生相談室長や学生相談室専任教員については、個人の携帯電話番号も記載した。

緊急時の医療機関リスト

緊急に医療機関にリファーする際に、対応を依頼する近隣の医療機関のリストであり、特に入院施設や救急体制を設けている医療機関を中心にまとめている。

まとめと今後の課題

本研究では、大学学生相談室において学生から希死念慮が語られた際の対応について、先行文献を参考にし、また学生相談室での実務の現状や本学の組織的現状も踏まえて、「学生相談室において希死念慮が語られた際の対応マニュアル」を作成した。その結果、本マニュアルには、対応の

仕方、注意点だけでなく、状況把握やアセスメントに使うことのできるチェックシートや、危機のレベルに共通するあるいは各レベルに必要な対応ポイント、学生に手渡す学外機関のリスト、学内連携のための緊急時連絡網、学外連携を図る時の医療機関のリストが含まれた。本マニュアルは、希死念慮の様々なレベルに対して対応できるものとなっており、かつ学内外の連携をスムーズに図れるものとなっていると考えられる。また本マニュアルは、筆者の所属する大学組織に即して作成されたが、各大学の状況に応じて連絡網等必要箇所を加筆・修正することで、各大学に適した独自のマニュアルとして用いることができる。これまで医療機関や自治体等では、自殺対応・対策マニュアルの作成が多く試みられてきた一方で、大学に関してはこれまでほとんど報告がなされてこなかったことを踏まえると、学生相談室における希死念慮に対する対応を体系的にまとめた本研究は、一定の意義があると考えられる。

しかしながら、本研究で作成したマニュアルは試案であり、希死念慮が語れた際の対応に有益であるかについての評価は行っていない。今後は、学生相談に携わる相談員、実務者を対象に、対応マニュアルに対するニーズや本マニュアルへの評価に関する調査を行い、より有益なマニュアルを検討していく予定である。

引用文献

- Coombs, W. T. (2010). Parameters for crisis communication. In W. T. Coombs & S. J. Holladay (Eds.), *The handbook of crisis communication* (pp.17-53). West Sussex, UK: Wiley-Blackwell.
- 独立行政法人日本学生支援機構 (2007). 大学における学生相談体制の充実方策について——「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」——独立行政法人日本学生支援機構 Retrieved from <https://www.jasso.go.jp/gakusei/archive/jyujitsuhsoku.html> (2019年9月20日)
- 藤澤 大介・中川 敦夫・田島 美幸・佐渡 充洋・菊地 俊暁・射場 麻帆…大野 裕 (2010). 日本語版自己記入式簡易抑うつ尺度 (日本語版QIDS-SR) の開発 *ストレス科学*, 25(1), 43-52.
- 福田 一彦・小林 重彦 (1973). 自己評価式抑うつ性尺度の研究 *精神神経学雑誌*, 75 (10), 673-679.
- 福田 真也 (2017). 新版大学生のこころのケア・ガイドブック——精神科と学生相談からの17章—— 金剛出版.
- 古野 拓 (2010). IIIどのような時に自殺の危険があるのか——1.まず、うつ病を理解する—— 杉山 直也・河西 千秋・井出 広幸・宮崎 仁 (編) *プライマリ・ケア医による自殺予防と危機管理——あなたの患者を守るために——* (pp.43-47) 南山堂.
- 石井 治恵 (2019). 学生相談における危機介入策分類モデルの構築 *高等教育ジャーナル：高等教育と生涯学習*, 26, 1-9.
- 国際基督教大学カウンセリングセンター (2015). 国際基督教大学カウンセリングセンター活動報告, 26.

- 小嶋 雅代・古川 壽亮 (2003) . 日本版 BDI-2 ——ベック抑うつ質問票手引 —— 日本文化科学社.
- 国立大学法人保健管理施設協議会 (2010) . 大学生の自殺対策ガイドライン2010 三重大学 Retrieved from <http://www.mie-u.ac.jp/health/PDF/Guideline2010.pdf> (2020年1月20日)
- 厚生労働省 (2019) . 自殺対策白書 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/19/index.html> (2020年1月20日)
- 桑原 寛・河西 千秋・川野 健治・伊藤 弘人 (2009) . 平成20年度厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「自殺に傾いた人を支えるために——相談担当者のための指針——」報告書
- 宮城県自死対策推進センター. 自死アセスメントシート 宮城県 Retrieved from <https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/673425.pdf> (2019年9月20日)
- 文部科学省 児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議 (2009) . 「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」のマニュアル及びリーフレットの作成について 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/046/gaiyou/1259186.htm (2019年9月20日)
- 内閣府 自殺対策推進室 (2013) . ゲートキーパー養成研修用テキスト (第3版) 厚生労働省 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000128774.html> (2019年9月20日)
- 中村 剛・西村 優紀美 (2000) . 学生の自殺——富山大学生の自殺事例を通して—— 学園の臨床研究, (富山大学保健管理センター), 1, 13-17.
- 日本学生相談学会 (2014) . 学生の自殺防止のためのガイドライン 日本学生相談学会 Retrieved from <http://www.gakuseisodan.com/wp-content/uploads/public/Guideline-20140425.pdf> (2019年9月20日)
- 斉藤 美香・飯田 昭人・川崎 直樹 (2013) . 学生相談における自殺未遂学生への支援——北海道内大学学生相談室における動向—— 北翔大学北方圏学術情報センター年報, 5, 67-72.
- 杉岡 正典・若林 紀乃 (2012) . 大学生を対象とした自殺予防教育に関する基礎的研究 広島文化学園大学学芸学部紀要, 2, 9-15.
- 杉岡 正典 (2018) . 大学生の自殺予防に関する研究の動向——自殺予防のための学生相談アプローチの検討—— 学生相談研究, 38 (3) , 265-279.
- 杉山 直也・河西 千秋・井出 広幸・宮崎 仁 (編) (2010) . プライマリ・ケア医による自殺予防と危機管理——あなたの患者を守るために—— 南山堂.
- 内田 千代子 (2010) . 21年間の調査からみた大学生の自殺の特徴と危険因子——予防への手がかりを探る—— 精神神経学雑誌, 112 (6) , 543-560.
- 高橋 祥友 (2007) . あなたの「死にたい、でも生きたい」を助けてたい 講談社プラスアルファ新書
- 特定非営利活動法人メンタルケア協議会 JAM自殺リスクアセスメントシート

(JAMSIG : Suicide Intervention Guideline by JAM) 特定非営利活動法人メンタルケア協議会 Retrieved from <http://www.npo-jam.org/works/suicide/jamsig.html> (2019年9月20日)

山田 朋樹 (2010) . IV 希死念慮に遭遇したら～初期対応とアセスメント～
—1. 初期対応～希死念慮を聞き出す～
—— 杉山 直也・河西 千秋・井出 広幸・宮崎 仁 (編) プライマリ・ケア医による自殺予防と危機管理—
—あなたの患者を守るために—— (p.83-88) 南山堂.

付記

本マニュアルの作成に際して、貴重なコメントを下さいました一橋大学学生相談室スタッフの貝谷智子さん、新川智子さん、前川真奈美さん、岡本茜さん、宮腰辰男さん、石川恵さんに心より感謝申し上げます。